

憲法第九条と基地航空祭と有事法制？

子「お父さん、ぼく日本国憲法を読んだらね『陸・海・空その他の戦力は保持しない』と書いてあったけれど、自衛隊は陸・海・空軍を持つてるよね、持っていいの？」

父「よく気がついたね。憲法で『陸・海・空軍は持たない』と書いてあるから、『自衛隊』と呼んでごまかしているのだよ。自衛隊は、まちがいなく軍隊だよ。だから『持つてはいけない』のだ。」

子「じゃあ、日本の政府は『軍隊』を『自衛隊』と言い替えて、大人も子供も、だましてるってこと？」

父「まあ、そういうことだ。日本で一番大切な憲法を守らない政府は、悪い政府だとお父さんは思うよ。国民もだまされないようにしなくてはいけないね。」

子「話は変わるけど、この頃『有事法制』という言葉をよく聞くけど、『有事』ってあれなんなの？」

父「うん、いい質問だ。『有事』というのは『戦争』のことだよ。どこかの国が攻めてきたら、自衛隊と戦争になる。そうなったとき、国民に協力せよ、という法律を作ろうというのだ。しかしね、どこの国とも仲良く平和につき合っつておれば、攻めてくる国なんて一つもないよ」

子「ぼくもそう思うよ。学校で、ぼくみんなと仲良くしてるから、たまに口ゲンカくらいはするけれど、なぐり合いになることなんか一度もないもの」

父「ところがね、日米安全保障条約という軍事同盟があつてね、アメリカのやる戦争に日本も協力するようになってる。だから日本も戦争に巻き込まれることになってしまう。そうなったときに、国民も戦争に協力せよ、という法律：これが『有事立法』さ。」

子「お父さん、今月末頃に『基地航空祭』があるよね。あれ、なんでやるの？」

父「うん、簡単に言えば、戦闘機で急降下や急上昇したり、サーカスみたいなことをやって、こんなに上手だから戦争に勝てるよ、という宣伝だね。」

しかし、基地に集まった人たちが『ワー、スゴイ』と空を見上げている真ん中へ急に墜落したら、何千人という人が一度に死んでしまうね。だからお父さんは反対だ！」

子「お父さん、ぼく日本国憲法を読んで、平和の大切さが分かったから、航空祭なんかには行かないよ。心配しないでね。ぼくが総理大臣になったら、有事法制の反対の平和法制を作つて、どこの国とも仲良くするんだ！」

◆父は、我が子がいつの間にか平和を愛する心を持っていることを知つて、ほのぼのとした安らぎを覚え、平和への堅い希望を心に抱くことができたのであった。